

石淵ダムニュース

平成23年9月2日
第21号

小学生が石淵ダムを見学



6月28日から9月1日にかけて、胆沢平野地区農業用水水源地域保全対策推進協議会が主催する「水と緑の探検隊」の一環として、奥州市内の小学校計7校の子供達が水循環の仕組みを勉強するため、石淵ダムを見学しました。

各小学校の子供達は、石淵ダム管理支所の職員による説明を聞き、ノートを手元にメモを一生懸命とったり、質問をするなどダムの役割について学びました。



6月28日 若柳小学校



6月30日 ^{ときわ}常磐小学校 129名



7月7日 前沢小学校 68名



7月11日 水沢小学校 134名



8月24日 胆沢第一小学校 70名



8月26日 ^{なつた}南都田小学校 48名



9月1日 ^{こじょう}古城小学校 18名

流木を無料配布しています!



石淵ダムでは、ダム湖に漂着した流木について、管理に支障をきたさないように、集積しています。

従来は集積した流木を処分場に持って行き、処分するのみでしたが、資源の有効活用と処理費用の節減を目的に一般の方へ無料配布をしています。

皆さんも薪ストーブの燃料や流木アートなどに流木を活用してはいかがでしょうか?

詳細は[こちら](#)を参照願います。



流木の積込状況

石淵ダムの記録 (第1回)

石淵ダムは昭和28年に完成した我が国初のロックフィルダムで、今年で58年目を迎えました。現在、石淵ダムの下流に建設している胆沢ダムが平成25年に完成することにより、これまで胆沢平野を潤し、洪水被害から守ってきた石淵ダムは役目を終えることとなります。

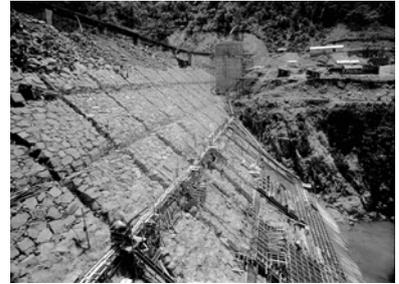
そこで、残り約1年となった石淵ダムのこれまでの歴史を少しずつですが振り返っていきたいと思います。第1回目は、建設当時の写真を紹介します。



下流から猿岩を撮影した写真です。石淵ダムの堤体で使われているロック材は、この猿岩を発破したものが使用されました。



ロック材を運ぶために機関車が使われました。当時は現在のように大型の重機がなかったため、運搬にも相当時間がかかりました。



ロック材の盛り立て状況になります。法面の空隙に小岩石を充填し、きれいに整形する作業は今も昔も人力で行います。



余水吐きピアの施工状況です。当時は終戦直後ということもありコンクリート等の材料の入手が困難な状況下で施工を行いました。



余水吐きの施工状況です。擁壁の上に人が立っており、余水吐きのスケールの大きさが分かりますね。

ダム底からの風景

石淵ダムでは7月中旬から8月中旬までまとまった降雨が無かったことから、ダムに貯めていた水も徐々に減少し、8月16日には貯水率(有効容量)が10%となりました。

普段は水がたまっているため、ダムの底に人が立ち入ることはできませんが、今回の渇水で、ダムの底に降りて写真を撮影することができました。



放流ゲート



取水塔



排水塔

胆沢平野の安全と暮らしを支える「石淵ダム」

〒023-0403

奥州市胆沢区若柳字尿前1-9
北上川ダム統合管理事務所
石淵ダム管理支所

TEL 0197-49-2211
FAX 0197-49-2255